

## 令和4年度 第3回経営協議会議事要録

日 時：令和4年11月17日（木） 10：00～11：20

場 所：オンライン会議（Teams）

出席者：太田学長，尾崎委員，小野寺委員，川村委員，杉田委員，種田委員，辻山委員，幅委員，睦好委員，久留主理事，佐川理事，山岸理事，鳥羽田理事，菊池理事，原口人文社会科学部長，野崎教育学部長，岡田理学部長，乾工学部長，宮口農学部長

監事監査規則第9条第2項による出席者：人見監事，浅見監事

### 議 題：

#### 審議事項

- 1 令和3年度自己点検評価書（案）について
- 2 教職員賃金規程及び役員給与規程の一部改正について
- 3 教育学部附属中学校における部活動指導員の導入について
- 4 国立大学法人茨城大学における学生納付金その他の費用に関する規則の一部改正について

#### 報告事項

- 1 新たな教育組織（学士課程）設置準備の進捗状況等について

## 議 事 概 要

### I 審議事項（○：経営協議会委員 ●：大学事務局等）

- 1 令和3年度自己点検評価書（案）について

太田学長から，令和3年度自己点検評価書（案）について，資料1に基づき審議願いたい旨の提案があった。次いで，大学戦略・IR室長から説明があり，審議の結果，一部修正等がある場合には，学長に一任することで提案のとおり了承された。

#### 【主な意見】

○詳細かつ整理された評価書になっている。

○令和3年度の評価書が今提示されるのは遅い。来年度は上半期にお願いしたい。

●評価作業は既に済んでいたが，令和3年度は第3期の最終年度ということもあり，達成状況等の報告書の取りまとめに時間を要した。次年度以降は，法人法改正により年度評価が廃止されたことから，早期に評価書を取りまとめる予定である。

○未達成項目がおおよそ10%とのことだが，元々の目標値はどの程度を想定していたのか。

●本学では高い目標をあえて指標としてきている項目もあり，より高い達成率を目指してきた。

○今後はどのように目標を掲げていくのか。

●第3期は1つの計画に，意欲的な項目と着実な項目等，複数の指標を入れ，総合的な評価で計画の達成具合をみていこうと考えていた。計画数も多く，一部の指標は思い切った意欲的な目標ではあったが，達成を危惧する意見もあった。第4期については，バランスの取れた目標としている。

2 教職員賃金規程及び役員給与規程の一部改正について

太田学長から、教職員賃金規程及び役員給与規程の一部改正について、資料2に基づき審議願いたい旨の提案があった。次いで、人事労務課長から説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

3 教育学部附属中学校における部活動指導員の導入について

太田学長から、教育学部附属中学校における部活動指導員の導入について、資料3に基づき審議願いたい旨の提案があった。次いで、人事労務課長から説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

【主な意見】

○教諭の負担軽減のためには、部活動指導員が顧問となる方がよりよいと思うが、教諭と部活動指導員が連携して行う方法を選んだのは何故か。

●年間計画等は教諭が担当し、実際の指導等は部活動指導員と連携して行う方がスムーズだと考えている。平日は引き続き教諭が担当し、特に負担となっている休日の部活動は、部活動指導員が行う。

4 国立大学法人茨城大学における学生納付金その他の費用に関する規則の一部改正について

太田学長から、学生納付金その他の費用に関する規則の一部改正について、資料4に基づき審議願いたい旨の提案があった。次いで、財務課長から説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

II 報告事項

1 新たな教育組織（学士課程）設置準備の進捗状況等について

久留主理事から、新たな教育組織（学士課程）設置準備の進捗状況等について、資料5に基づき報告があった。

【主な意見】

○工学部のフレックスコースの学生募集を停止して地域未来共創学環（仮称）に人員を配置するのはなぜか。

●フレックスコースは夜間主コースであり、働きながら学ぶ勤労学生や社会人学生の就学ニーズに対応するため開設したが、近年、そのような入学者がほとんどいなくなっている。こうした状況の変化に鑑み、本コース開設当時の役割を終えたと判断し、令和6年度以降の学生募集を停止することとした。他方で、地域企業や自治体からは地域課題を解決する実践的な人材養成が求められていることから、フレックスコースの学生定員を連係3学部の内数に配置し、その定員を入学定員とした地域未来共創学環（仮称）をつくり、自治体や企業等の学外でのコーオペ実習を導入することで、本学の教育をより充実させたいと考えた。

○データサイエンスに特化した学科を作ったからといって、必ずしもデータサイエンス人材が育成されるとは限らないのではないか。先生方の既存の研究の中でも、データサイエンスを活用したものがあると思う。そういった研究の中で適切な教育を受けることで、データサイエンスの能力が身についた学生を輩出することができるのではないか。

○文系・理系の垣根がない教育が必要である。早稲田大学にはデータ科学センターがあり、全学の垣根をこえてリテラシーの向上を行っている。

○周辺高校との連携も重要である。高大連携をさらに発展させたような仕組み作りが必要ではないか。

●茨城県の特徴としては中高一貫校が多く、子供たちが学んできたことを大学でどう発展させるかということが重要である。幼稚園から高校までは一貫して整備されてきているが、大学は繋がりが薄いように感じる。高大接続から高大共創へ枠組みを転換し、共に地域の教育を創り上げていきたい。

### Ⅲ その他

#### 1 全体を通した経営協議会委員からの意見

特になし

#### 2 監事からの意見

・エネルギー価格の高騰で厳しい状況にある。第4期中期計画を着実に実行できる経営基盤を確立するため、基金などの自己収入の増加及び人件費等の経常支出の削減に引き続き取り組んでいただきたい。

・学部等関係課程である新しい学環は、文理横断かつコーオプ教育にも重点をおいた挑戦的な試みと考える。十分に整備されて臨んでいただきたい。

#### 3 次回経営協議会開催日

太田学長から、令和5年1月を予定しており、後日日程調整を行う旨、確認があった。